

事業名 (箇所名)	国営明石海峡公園		担当課	都市局公園緑地・景觀課		事業 主体	近畿地方整備局				
			担当課長名	町田 誠							
実施箇所	兵庫県神戸市、淡路市										
該当基準	再評価実施後一定期間(3年間)が経過している事業										
主な事業の 諸元	国営公園整備 : 計画面積330.0ha、供用面積81.7ha 国営公園維持管理 : 供用面積81.7ha										
事業期間	事業採択	平成5年度	完了	平成37年度							
総事業費(億円)	958		残事業費(億円)			189					
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> 一の都府県を超える広域的な見地から設置された公園 国民の余暇施設に対するニーズに伴う自然体験型余暇施設を提供し、周辺施設との連携において核となる整備が求められている <p><達成すべき目標></p> <p>淡路地区: 大規模な土取り跡地の自然を回復し、新たな園遊空間を周辺施設と連携して創出 神戸地区: 歴史文化を含めた自然環境を保全し、いのちのぎわいが豊かな「里地里山文化公園」を目指す</p> <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> 政策目標: 良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現 施策目標: 良好で緑豊かな都市空間の形成、歴史的風土の再生等を推進する 										
便益の主な 根拠	誘致圏: 誘致圏: 淡路地区から100km圏、神戸地区から80km圏 誘致圏人口: 1,639万人										
事業全体の 投資効率性	基準年度		平成28年度								
	B:総便益 (億円)	3,232	C:総費用(億円)		1,916	全体B/C	1.7	B-C	1,316	EIRR (%)	6.6
残事業の投資 効率性	B:総便益 (億円)	335	C:総費用(億円)		219	継続B/C	1.5				
感度分析			事業全体のB/C		残事業のB/C						
	需 要 (-10% ~ +10%)		1.6 ~ 1.8		1.4 ~ 1.7						
	事 業 費 (+10% ~ -10%)		1.7 ~ 1.7		1.4 ~ 1.7						
	事 業 期 間 (+10% ~ -10%)		1.7 ~ 1.7		1.5 ~ 1.5						
事業の効果 等	<ul style="list-style-type: none"> 淡路地区では、四季を通じた花修景や幅広い年齢層に対応したプログラムの提供、広大な敷地を活かした大型イベント開催等により、広域的に来園者を誘致しており、淡路島観光の中核を担っている。 また、災害発生時には広域防災拠点として広いオープンスペースを確保するとともに、陸上自衛隊等の関係機関と連携し、災害時の初動応急対応の迅速化に寄与している。 神戸地区では、市民協働により季節毎の体験プログラムを継続的に提供する等、自然と共生する里地里山文化を次世代に継承している。 										
社会経済情 勢等の変化	平成26年4月の明石海峡大橋通行料金改定以後、明石海峡大橋の通行量及び淡路地域への観光入込数ともに増加傾向。										
主な事業の 進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度末までに全体事業費約958億円のうち約80%にあたる約769億円を執行。 淡路地区は平成14年3月の一部開園(30.1ha)以来、順次開園区域を広げ、平成28年4月までに40.4haを供用中。 神戸地区は平成28年5月に第I期開園を行い、現在41.3haを供用中。 										
主な事業の 進捗の見込み	<ul style="list-style-type: none"> 淡路地区においては、海岸ゾーンの園路広場整備等を実施。 神戸地区においては、第I期開園した棚田ゾーンに引き続き、森のゾーンの園路広場整備等を実施。 										
コスト縮減や 代替案立案 等の可能性	事業の実施にあたり、新技術・新工法の採用などにより、コスト縮減に努める。										
対応方針	継続										
対応方針理 由	事業の必要製、進捗の見込み、コスト縮減や代替案立案の可能性の視点から総合的判断										
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <p>対応方針(原案)のとおり「事業継続」でよいと判断される。</p> <p><兵庫県の意見></p> <p>国営明石海峡公園は明石海峡大橋周辺地域の広域レクリエーション形成にとって極めて重要な公園である。</p> <p>淡路地区は、淡路島観光の中核施設として淡路地域の観光振興に大きく寄与しており、県としても交流人口の拡大に向け、北淡路地域に立地する花緑関連施設のネットワークを形成するうえで重要な施設として位置づけている。今後とも、誘客の目玉となる特徴的な花修景による魅力向上や、近接する夢舞台や県立淡路島公園等との更なる連携を図っていただくとともに、社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて計画を見直していただいたうえ未開設区域の整備を推進していただきたい。</p> <p>神戸地区は、平成28年5月に一部開園し、里山文化の次世代への継承に向け、公園利用者への里山体験プログラムの提供が始まっている。引き続き、更なる広報による知名度向上や周辺施設と連携した効果的な公園運営を図っていただくとともに、藍那口の早期整備など未開設区域の整備を推進していただきたい。</p> <p>なお、事業の推進に当たっては、最新の知見を踏まえた新技術・新工法の採用など、可能な限りコスト縮減に取り組んでいただきたい。</p>										

【 国営明石海峡公園 位置図 】



事業名 (箇所名)	国営飛鳥・平城宮跡歴史公園		担当課 担当課長名	都市局公園緑地・景観課 町田 誠	事業 主体	近畿地方整備局										
実施箇所	奈良県奈良市、高市郡明日香村															
該当基準	再評価実施後一定期間(3年間)が経過している事業															
主な事業の 諸元	国営公園整備 : 計画面積181.9ha、供用面積59.9ha 国営公園維持管理 : 供用面積59.9ha															
事業期間	事業採択	昭和46年度	完了	平成52年度												
総事業費(億円)	929		残事業費(億円)		601											
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景></p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛鳥地方における歴史的風土及び文化財の保存等を図るとともに、我が国固有の優れた文化的資産である平城宮跡の保存及び活用を図るため閣議決定を経て事業化した公園 <p><達成すべき目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の「国家形成の始まりの地」である飛鳥地方において歴史的風土及び文化財の保存と活用を図る ・特別史跡であり世界遺産の構成資産の一つになっている「平城宮跡」の保存と活用を図る <p><政策体系上の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策目標: 良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現 ・施策目標: 良好で緑豊かな都市空間の形成、歴史的風土の再生等を推進する 															
便益の主な 根拠	誘致圏: 飛鳥区域から110km圏、平城宮跡区域から100km圏 誘致圏人口: 2,390万人															
事業全体の 投資効率性	基準年度		平成25年度													
	B:総便益 (億円)	3,794	C:総費用(億円)	2,378	全体B/C	1.6	B-C	1,416	EIRR (%)	-						
残事業の投資 効率性	B:総便益 (億円)	-	C:総費用(億円)	-	継続B/C	-										
感度分析	<p>事業全体のB/C</p> <table border="1"> <tr> <td>需 要 (-10% ~ +10%)</td> <td>1.4 ~ 1.8</td> </tr> <tr> <td>事 業 費 (+10% ~ -10%)</td> <td>1.5 ~ 1.6</td> </tr> <tr> <td>事業期間 (+10% ~ -10%)</td> <td>1.6 ~ 1.6</td> </tr> </table>										需 要 (-10% ~ +10%)	1.4 ~ 1.8	事 業 費 (+10% ~ -10%)	1.5 ~ 1.6	事業期間 (+10% ~ -10%)	1.6 ~ 1.6
需 要 (-10% ~ +10%)	1.4 ~ 1.8															
事 業 費 (+10% ~ -10%)	1.5 ~ 1.6															
事業期間 (+10% ~ -10%)	1.6 ~ 1.6															
事業の効果 等	<ul style="list-style-type: none"> ・飛鳥区域では、年間約88万人の来園者を迎えるとともに、開園当初からの累計利用者数は約4,091万人となっており、史跡見学等を目的とした散策・周遊の一環として利用されている。また、園内における参加体験型イベントや地域行事が一層の誘致に効果を発揮している。 ・平城宮跡区域においては、利用者アンケートにおいて9割以上の利用者から「満足」と回答を得るなど満足度が高い状況である。 															
社会経済情 勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地である奈良市・明日香村の観光客数は、平城遷都1300年記念事業が開催された平成22年度(約4,400万人)をピークに、事業終了後は観光客数が減少。また、明日香村については、人口減少・高齢化率の進展が顕著。 															
主な事業の 進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度末までに全体事業費約929億円のうち約35%にあたる約328億円を執行。 ・飛鳥区域は昭和49年7月の祝戸地区開園以来、順次開園区域を広げ、平成28年9月にキトラ古墳周辺地区が開園し、現在59.9haを供用中。 ・平城宮跡区域は平成20年度に事業化し、施設整備を実施中。 															
主な事業の 見込み	<ul style="list-style-type: none"> ・飛鳥区域においては、公園に隣接する県道の改良に併せて、公園施設の再整備を実施。 ・平城宮跡区域においては、早期開園を目指して拠点ゾーンの整備を進めるとともに、第一次大極殿院建築物の復原工事に着手する。 															
コスト縮減や 代替案立案 等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の実施にあたり、新技術・新工法の採用などにより、コスト縮減に努める。 															
対応方針	継続															
対応方針理 由	事業の必要製、進捗の見込み、コスト縮減や代替案立案の可能性の視点から総合的判断															
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容></p> <p>対応方針(原案)のとおり「事業継続」でよいと判断される。</p>															

【 国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 位置図 】

